

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-249914

(P2006-249914A)

(43) 公開日 平成18年9月21日(2006.9.21)

(51) Int. Cl.	F 1	テーマコード (参考)
E 02 B 3/06 (2006.01)	E 02 B 3/06 3 0 2	2 D 1 1 8

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2006-5293 (P2006-5293)
 (22) 出願日 平成18年1月12日 (2006. 1. 12)
 (31) 優先権主張番号 特願2005-33157 (P2005-33157)
 (32) 優先日 平成17年2月9日 (2005. 2. 9)
 (33) 優先権主張国 日本国 (JP)

(71) 出願人 391021938
 尾崎 憲正
 香川県さぬき市志度4693番地
 (72) 発明者 尾崎憲正
 香川県さぬき市志度4693番地
 Fターム(参考) 2D118 AA11 AA23 AA25 AA28 BA20
 CA03 DA04 FA01 FA04 FB33
 GA18 JA18

(54) 【発明の名称】 津波防波堤

(57) 【要約】

【課題】

費用や時間を削減でき、船舶の航行や、自然環境に影響を与えず、景観も損なわない高性能な津波防波堤を提供する。

【解決手段】

海面に浮上させる浮体から不透水性の幕体を垂らして膜体の下縁部を海底に固定するとともに、浮体の沖側海底に置く固着点と浮体とを複数の繫留索で結び、浮体中心を幕体下縁部海底固着点の直上海面より平時の満潮時水深の50パーセントに相当する距離以上沖側に位置するように配置し、浮体中心から海底に垂らす幕体の下縁部海底固着点までの寸法を津波襲来時に想定する水深に加えて水深の50パーセント以上長くしたものとすることを特徴とし、浮体の浮上沈降機構を持ち、平時は海底附近に沈設格納して津波の来る前に浮上展開させる津波防波堤とする。また、浮体を可撓性膜製の気嚢や硬質の気体容器にしたり、浮体の浮上に化学変化により発生するガス体を利用する。

【選択図】 図1

